研修で
学校が
変わる

特別支援教育支援員①
研修まとめ

令和２年８月４日（火）

Web会議による遠隔講義

「再点検！個に応じた指導・支援の実際」
～発達障がいの理解と具体的な指導・支援の在り方～

講師　後野　文雄　氏（特別支援教育士スーパーバイザー）

【研修のねらい】
■発達障がいの特性を理解し、日常の支援に活かす。

特別支援教育の理念

児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び支援を行う

インクルーシブ教育

障がいのある者と障がいのないものが共に学ぶ仕組み
個人に必要な「合理的配慮」が提供される等が必要とされている

合理的配慮とは

①必要な配慮は提供しなければならない
②みなと同じにできないから支援する
③特別扱い＝ずるいという考えは古い

発達障害とは

LD(学習障がい)
ADHD
（注意欠如多動性障がい）
ASD
(自閉症スペクトラム障がい)

すべての子どもを支えてこそ学校である

気づきから始まる理解と支援
困った子ども → 困っている子ども
子ども側の支援から学習上の課題、生活上の課題に気づく

４つの障害＋１

コミニュケーションスキルの障がい
ソーシャル・スキルの障がい
アカデミック・スキルの障がい
モーター・スキルの障がい+感覚の問題

受講者のプラン・・・私はこの学びをこう活かす　～部分抜粋～

○児童に、どのような合理的配慮をすればよいのかを考えていく必要があるのかは、日々の児童からのサインを見取ることが大切だと思った。困り感を少しでも取り除いていけるよう、担任と共通理解を図りながら支援していきたい。
○発達障がいのある児童は、「困った子」ではなく「困っている子」だということを念頭に置き、関わっていきたい。
○個人に必要な合理的配慮を公正に行うことができるよう、周りの子どもの障がい理解促進も図っていきたい。
○全員が同じようにできること、それに合った支援をしていくことが大切だと思った。そのことを忘れないよう日々努めていきたい。

発達障がいの理解
発達障がいのある人と向き合う時のポイント

サインを読み取ろう
・姿勢・鉛筆の持ち方
・靴の履き方・目の動き
・言葉の使い方　など

心の理論の欠如
・他人の視点に立つことが苦手
・相手の気持ちが理解できない
・言葉を字義通りに解釈
・場面理解が弱い

"自分以外の人が、自分と・・・"
・同じモノを見ている
・同じ形に見えている
・同じ音を聴いている
・同じ感情を持っている
のではないことをまず自覚する

発達障がいの世界
・顔認識が苦手
・全体を見ることができない
・部分を捉えてしまう

授業改善
・子どもの思考の流れに沿った授業構成になっているか
・予想される子どもの反応に応じた支援や手立てが盛り込まれているか
・子どもにとって分りやすく、答えやすい発問が用意されているか

受講者のプラン・・・私はこの学びを日常の支援にこう活かす　～部分抜粋～

○姿勢と脳の関係について学んだので、具体的で子どもに分かりやすい声かけなるようつなげていきたい。
○自分の感覚と相手の感覚が同じではないということは支援する上で忘れてはならないと感じた。とにかく具体的に一つ一つ伝えることを心がけ、また指示だけでなく褒めてフォローするということも意識しながら関わっていきたい。
○子どものサインについて、姿勢や鉛筆の持ち方、靴の履き方、足元について具体的に示していただいた。区切って指示を出すなど、関わり方もとても参考になった。困り感を理解して、声かけの方法を考えていきたい。
○正しい鉛筆の持ち方をしないと脳の疲労感が違うと知り、将来を見据えて支援したいと思った。学びの姿勢に丁寧に関わり、具体的な指示を出していきたい。